

# 第192回 中小企業の景気動向調査

調査時点	2022年5月下旬～6月上旬
調査対象期間	2022年4月～6月実績 2022年7月～9月見通し
調査対象企業	当金庫お取引先 1,715社(大阪府内ならびに尼崎市)
回答企業数	601社
回答率	35.0%
調査方法	調査票郵送による回答、インターネットによる回答
分析方法	DI(Diffusion Index)を中心に分析 DIとは、売上、収益、価格、数量について、「増加」(上昇)と回答した企業割合から「減少」(低下)と答えた企業割合を差し引いた値 〔例:売上DIの場合〕 売上が「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いて求めます。

売上が「増加」した企業  
45%

「変わらず」  
20%

売上が「減少」した企業  
35%

45% - 35% = 10 ← 売上DI

## アンケート回答企業の内訳

業種別 従業員別	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	サービス業	運輸業	不動産業	計	構成比	累計 構成比
1～4	33	36	30	6	25	16	6	23	175	29.1%	29.1%
5～10	48	15	6	8	40	10	9	9	145	24.1%	53.2%
11～20	53	12	4	5	20	7	7	2	110	18.3%	71.5%
21～30	22	7	1	5	10	3	5	3	56	9.3%	80.9%
31～50	15	6	1	3	7	4	5	3	44	7.3%	88.2%
51～100	15	3	3	0	4	6	5	4	40	6.7%	94.8%
101～	9	2	1	2	4	3	3	0	24	4.0%	98.8%
無回答	3	1	3	0	0	0	0	0	7	1.2%	100.0%
計	198	82	49	29	110	49	40	44	601	100.0%	
構成比	32.9%	13.6%	8.2%	4.8%	18.3%	8.2%	6.7%	7.3%	100.0%		

(製造業の内訳)

食料品	繊維	木材	家具・建具	パルプ・紙	印刷	化学
4.8%	8.3%	0.9%	1.3%	1.7%	9.2%	6.1%
ゴム・革	鉄鋼	建材	非鉄金属	金属製品	電子部品	その他
3.1%	10.9%	0.0%	5.2%	31.5%	3.5%	13.5%

売上D Iは-8.7（前回比+10.4ポイント）、収益D Iは-16.5（前回比+12.9ポイント）と大きく改善していますが、マイナス圏での推移が目立つ厳しい状況に変わりはありません。

売上D Iは、卸売業・運輸業がプラス圏に改善し、飲食業の売上D Iは0となり、収益D Iでは、コロナ禍で活動に大きな制約があった飲食業が僅かにプラスに改善しています。

販売価格D Iは、17.8（前回比7.7ポイント）、販売数量D Iは-7.0（前回比16.3）と改善しており、価格転嫁が浸透しつつあることが分かります。

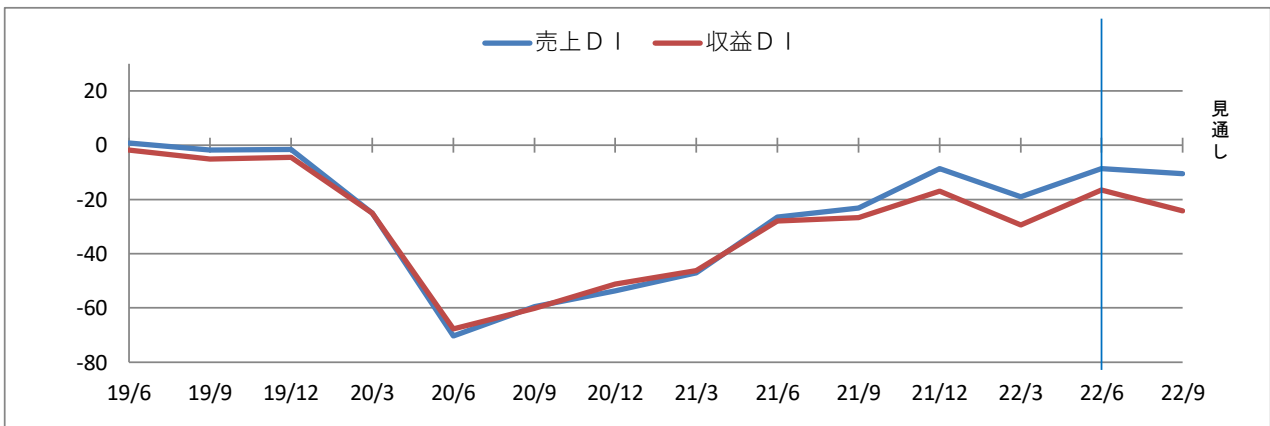
2022年7-9月期の見通しは、売上D Iが1.7ポイント、収益D Iが7.8ポイント悪化と予測、販売価格D Iが5.5ポイント上昇する一方、販売数量D Iが7.6ポイント悪化を見込んでおり、価格転嫁するものの販売数量は減少し、収益が悪化すると考える悲観的な見方が広がっており、経営者の不安も高まっているようです。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が73.3%と前回同様、最大の問題点となりました。「売上受注の停滞・減少」52.6%と続き、「一般経費増大」42.6%、「人手不足」34.2%が上位を占めました。

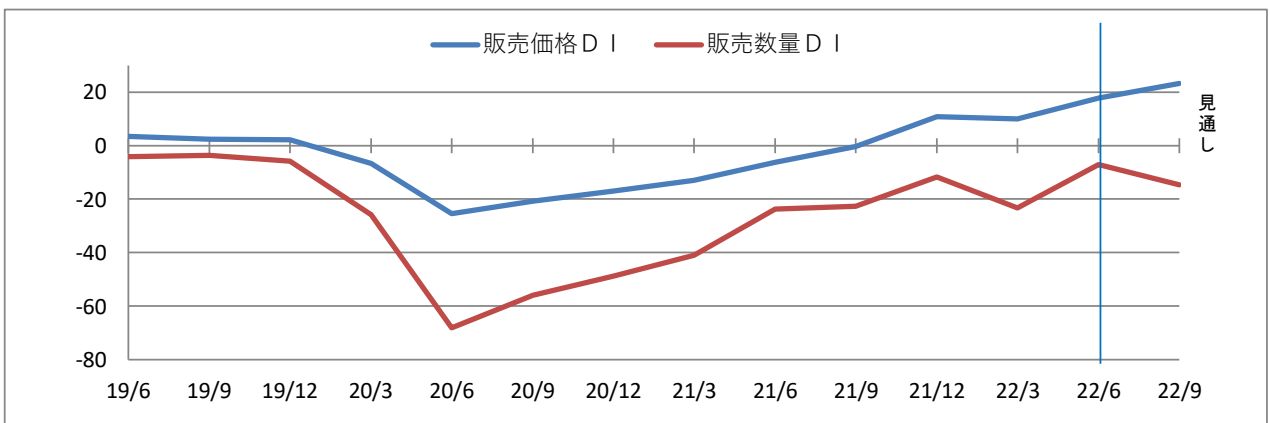
継続的な物価上昇局面で、様々な課題に対処しながら、いかに事業を本格稼働させていくことができるかが業績改善のポイントとなりそうです。

設備投資は「実施中」14.1%（前回比+2.1ポイント）、「予定あり」14.4%（前回比+0.2ポイント）の合計28.5%と過去1年で最高の水準となり、設備投資を伴う新規事業を立ち上げる動きも活発化しています。

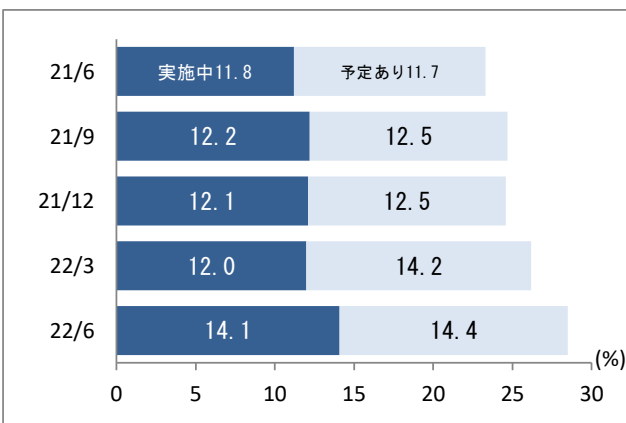
売上D I・収益D Iの推移



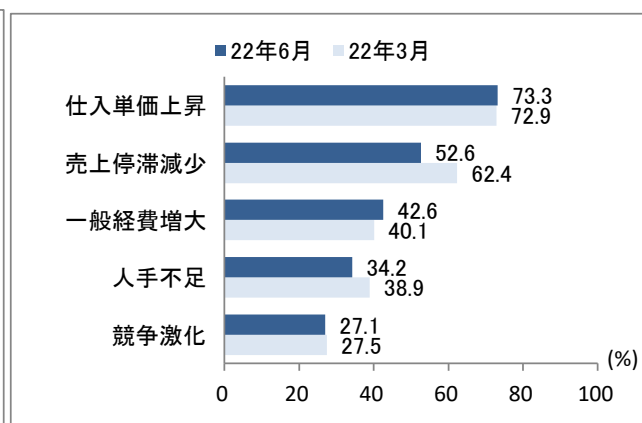
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



売上D Iは-4.2（前回比+0.5ポイント）、収益D Iは-20.9（前回比+0.6ポイント）となり、マイナス圏での推移となり、前回調査時の4-6月の見通しと比べ、売上D Iは4.2ポイント、収益D Iは10.5ポイント下回っており、予測を大幅に上回る下落幅となりました。

2022年7-9月期は、売上D Iが2.5ポイント、収益D Iが2.6ポイント悪化すると予想、販売価格D Iが8.2ポイント上昇し、販売数量D Iが10.3ポイント悪化すると見込んでおり、需要の高まり以上に原材料や電気料金などコストが増加し、価格転嫁するものの受注が減少する懸念が高まっています。

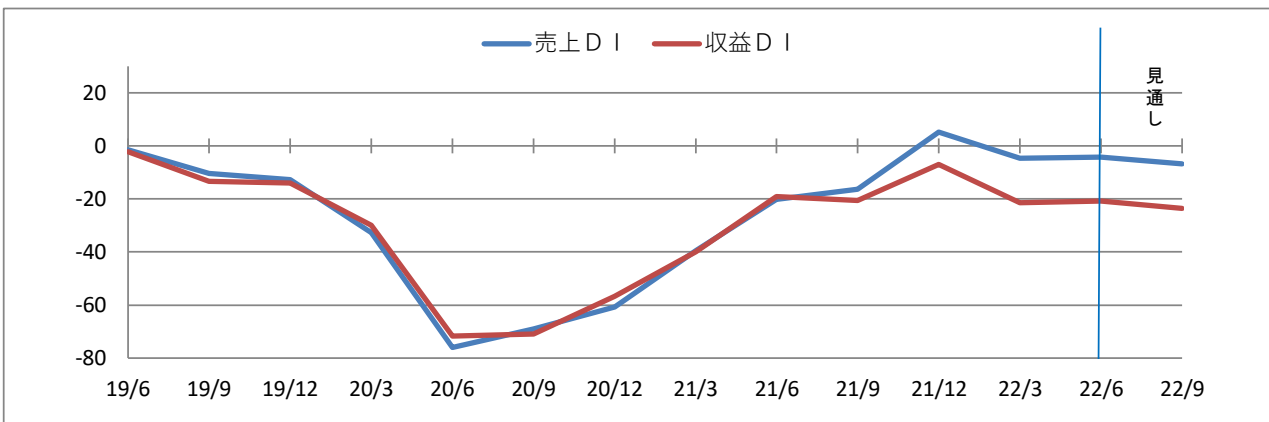
経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が82.1%と最も高く、「売上停滞減少」60.0%、「一般経費増大」48.7%と続きました。その他「部材の入荷遅れが出ている」「出荷が後ろ倒しとなっている」との声も聞かれ、原材料の納期遅れも問題となっています。

厳しい状況が続く中、製造業では、いかに安定生産・供給ができるか、仕入先・外注先、販売先と協力したサプライチェーン体制の維持が重要な要素となりそうです。

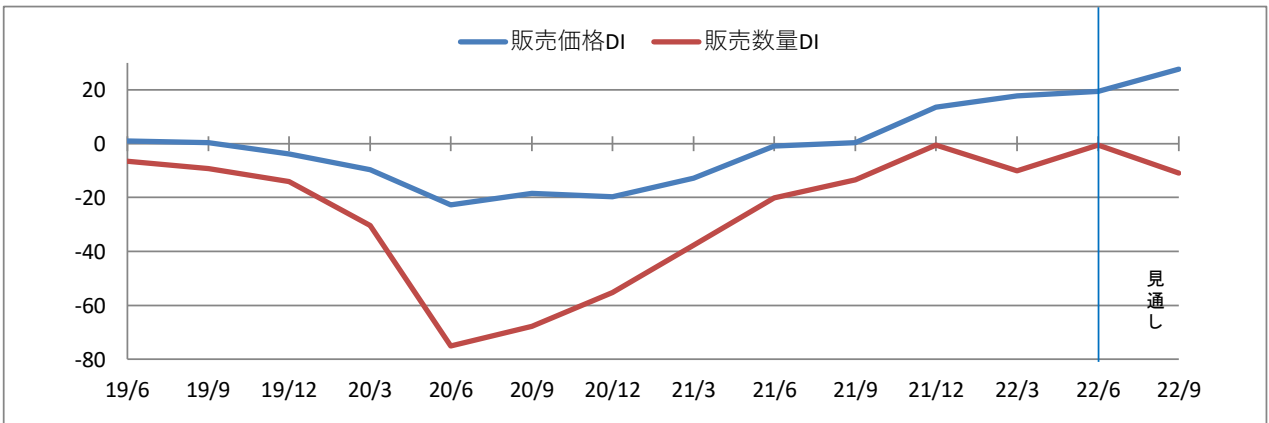
設備投資は「実施中」が16.9%（前回比+0.7ポイント）、「予定あり」が19.5%（前回比+2.0ポイント）で合計36.4%と高い投資意欲が見られます。中には、既存事業に加えて不足する半導体生産分野への進出を計画するなど、社会的に必要とされる分野を目指す企業もみられます。

売上D I・収益D Iの推移

n= 198

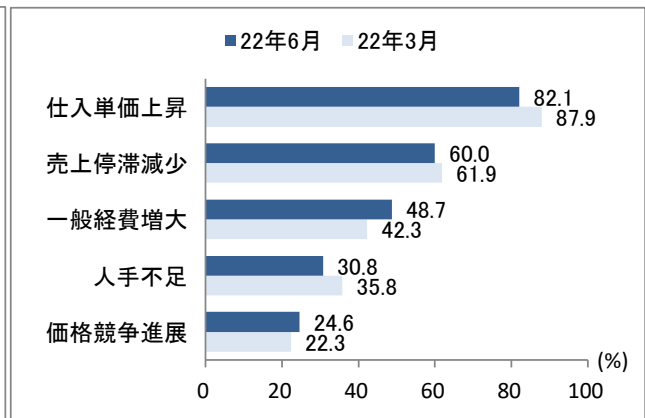
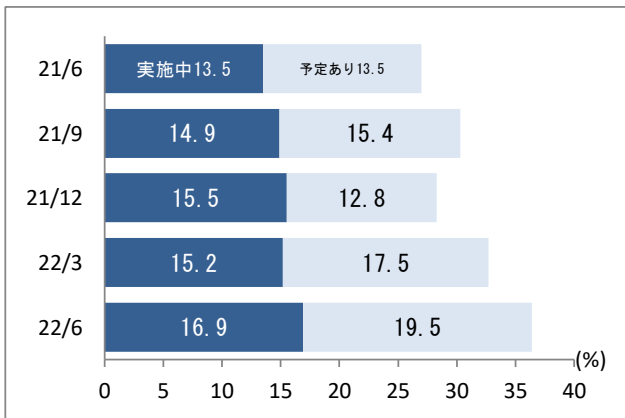


販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向

経営上の問題点



売上D Iは+1.3（前回比+21.6ポイント）、収益D Iは-2.4（前回比+34.1ポイント）と大幅に改善しています。前回調査時の1-3月の見通しから売上D Iは14.9ポイント、収益D Iは30.1ポイント改善し、見通しを大幅に上回りました。要因として、経済活動が活発化を目指す中、事業を本格稼働させるために在庫需要が上昇したことが寄与していると思われます。

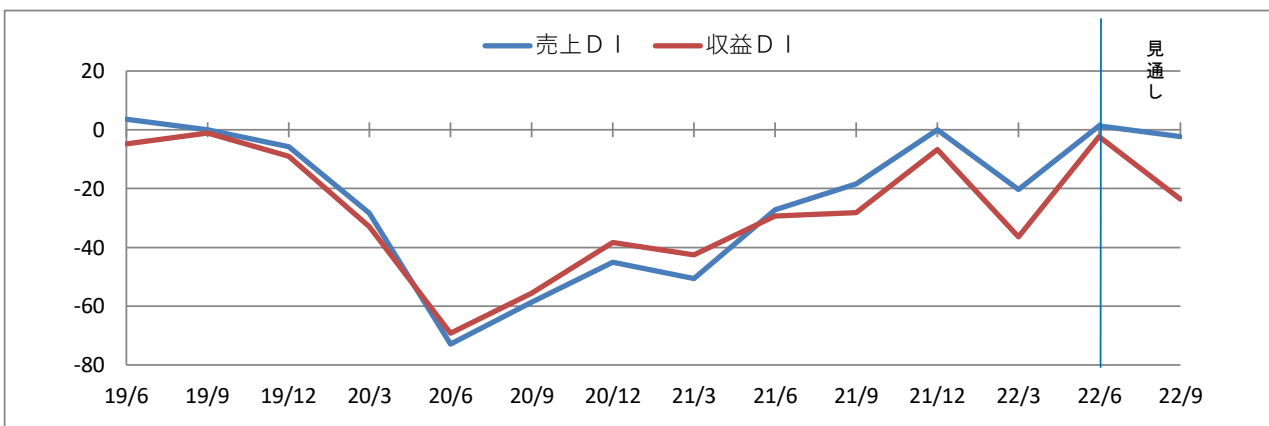
2022年7-6月期は、売上D Iが3.7ポイント、収益D Iが21.1ポイント悪化する予測となり、需要はあるものの急激な仕入価格高騰により販売価格への転嫁が追いつかないことが考えられます。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が78.8%と前回に続き最大となり、「売上受注の停滞減少」58.8%と続き、継続的に上昇する仕入価格を販売価格へ転嫁できるかが業績改善の分岐点となりそうです。

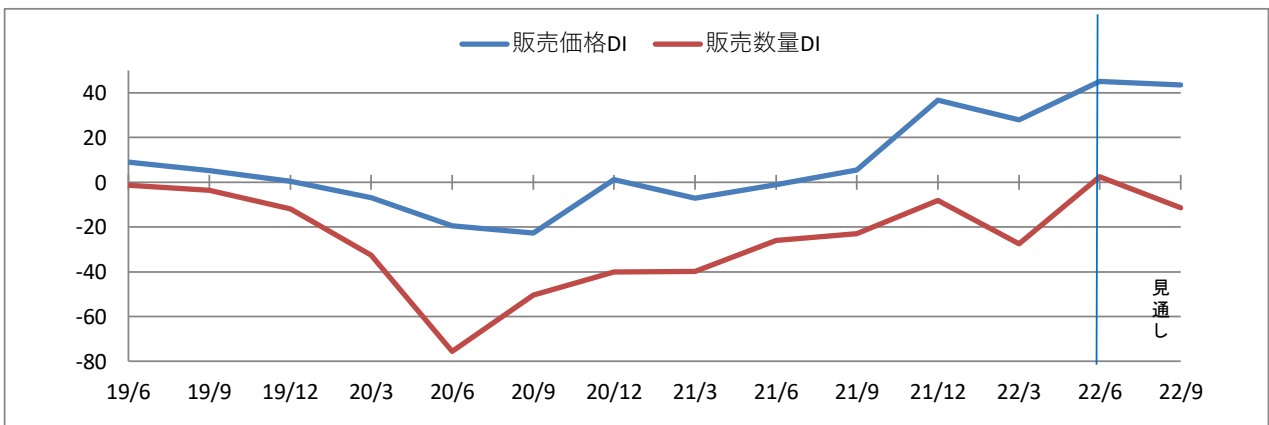
医療機器商材を取り扱う企業では「自社の製品が保険適用され、売上が好調」といった事例も見られる一方で、自動車用品卸売業では「輸入仕入が100%に近いため、販売価格が相当高騰する上、輸入品の納期遅れもある」といった事例もあり、取扱商材や事業内容により影響には大きな差が見られます。

設備投資は「実施中」が6.3%（前回比-2.2ポイント）、「予定あり」が10.1%（前回比+3.1ポイント）で合計16.4%となりました。

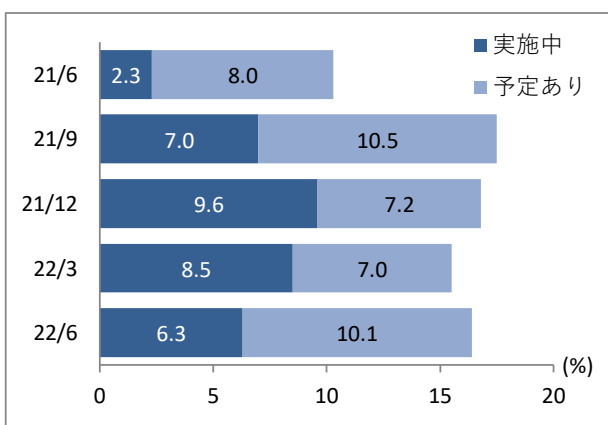
売上D I・収益D Iの推移



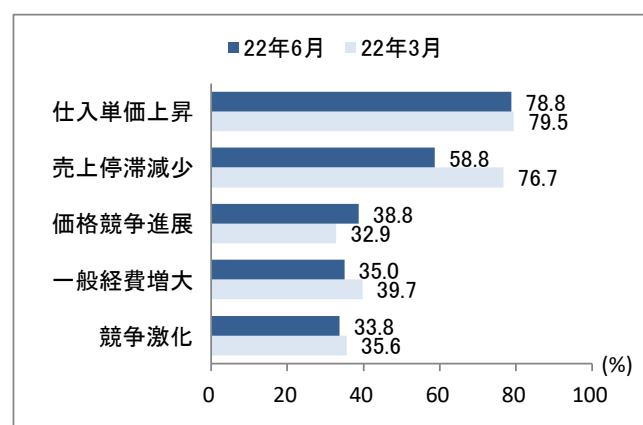
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



# 小売業

## 巣籠り消費に集中！？苦境が続く！

売上D Iは-28.7（前回比+10.8ポイント）と大幅に改善したものの、収益D Iは-41.3（前回比±0.0ポイント）と改善は見られず。

前回調査時の4-6月の見通しから売上D Iは0.9ポイント、収益D Iは10.3ポイント下回っており、想定を上回る物価上昇や円安の進展による仕入価格上昇の中、販売価格への転嫁が進まないことが課題となっているようです。

2022年7-9月期は、売上D Iが1.1ポイント、収益D Iが3.4ポイント悪化すると予測しており、本格的な景況改善は、程遠い状況にあります。

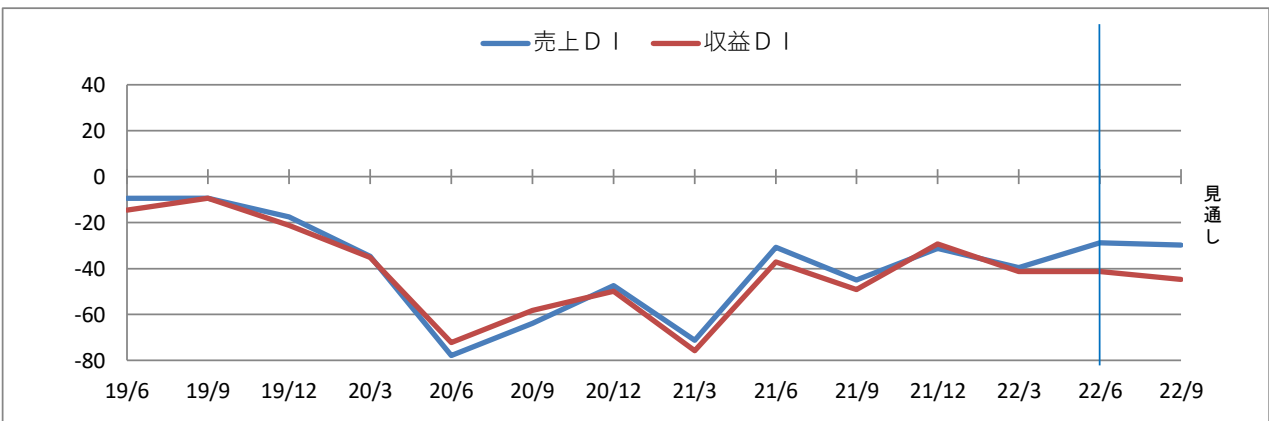
販売価格D Iは23.4（前回比+11.2ポイント）、販売数量D Iは-25.5（前回比+13.2ポイント）と改善していますが、収益D Iの改善にはいたっていません。

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が70.8%となり、「仕入単価の上昇」62.5%、「一般経費増大」43.8%と続いており、売上が伸び悩む中で仕入値は上昇するなど厳しい状況が続きそうです。

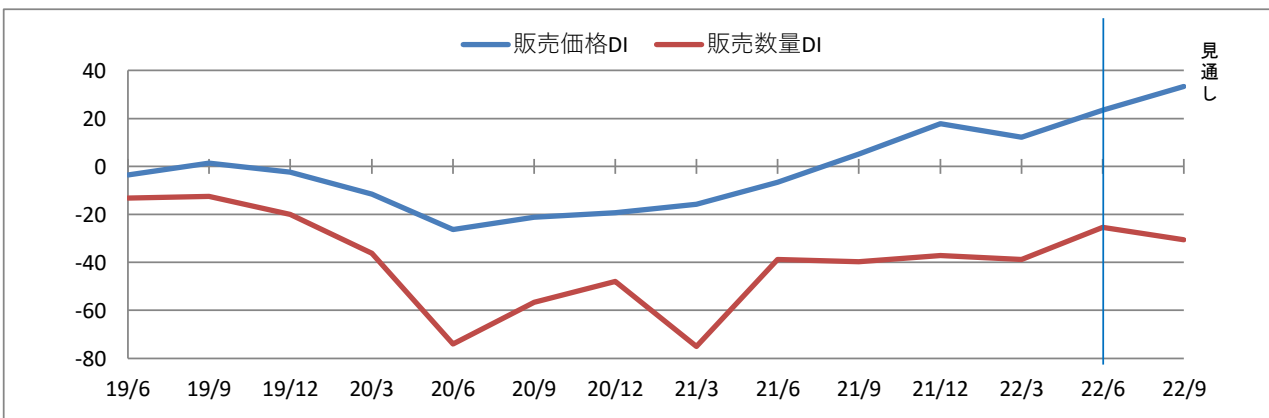
設備投資は「実施中」が6.4%（前回比+2.1ポイント）、「予定あり」が8.5%（前回比-6.4ポイント）で合計14.9%となりました。また、「仕入値上げの案内や廃番商品の案内が多く、その処理に追われる」といった声や「商店街に人が戻っておらず、商売しづらい」といった声が聞かれ、街に活気が戻ることに期待が高まっています。

売上D I・収益D Iの推移

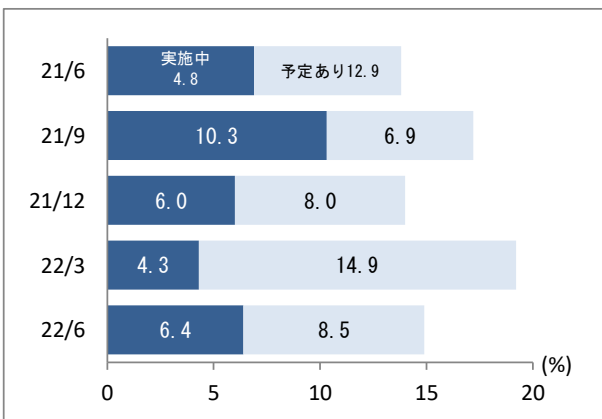
n = 49



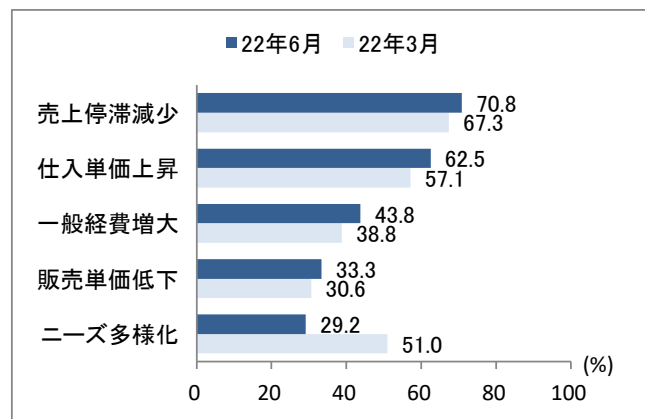
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



売上D Iは±0.0（前回比+66.7ポイント）、収益D Iは3.4（前回比+70.0ポイント）と、V字回復を果たしています。前回調査時の4-6月の見通しから売上D Iは33.3ポイント、収益D Iは47.8ポイント改善しています。

販売価格D I 11.1（前回比+22.9ポイント）、販売数量D I 18.6（前回比+77.4ポイント）となり、販売価格上昇と販売数量増加を両立させた飲食店が多いことが分かります。

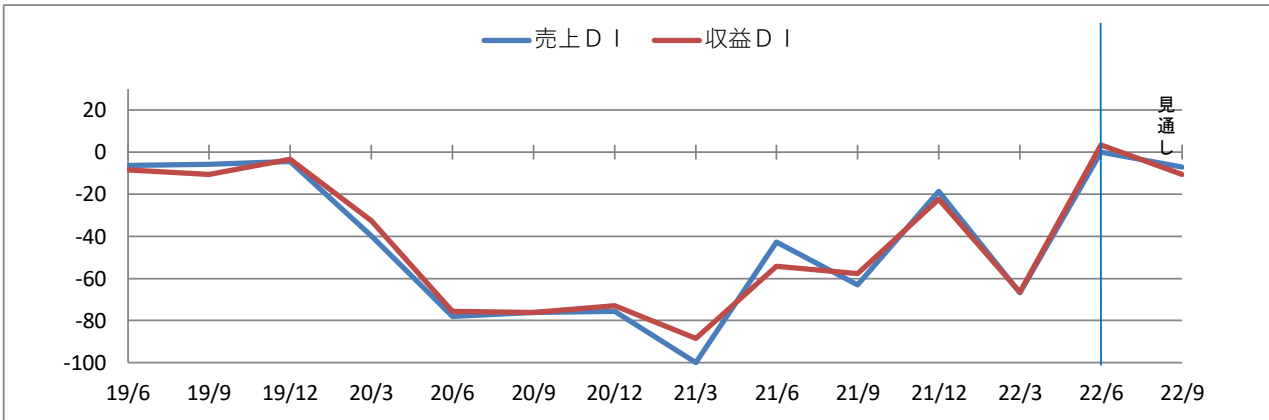
2022年7-9月期は、売上D Iが7.1ポイント、収益D Iが14.1ポイント悪化すると予測しており、要因として高騰する仕入価格を販売価格へ転嫁せざるを得ず、販売数量が減少することが懸念されており、街の人流が増加する中においても、先行きを不安視する割合が高まっています。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」の79.3%が最大の課題で、「一般経費増大」が44.8%、「人手不足」が41.4%となり、需要が高まる一方で仕入価格が高騰し、経費も増大、人手不足など夏場の繁忙期を控えて悩ましい状況にあり、「食品は仕入価格が異常に上昇しており、特に小麦と油が上昇している」「人材不足も続いており、電気・ガス料金が高すぎる」といった悲鳴に近い声も聞かれます。

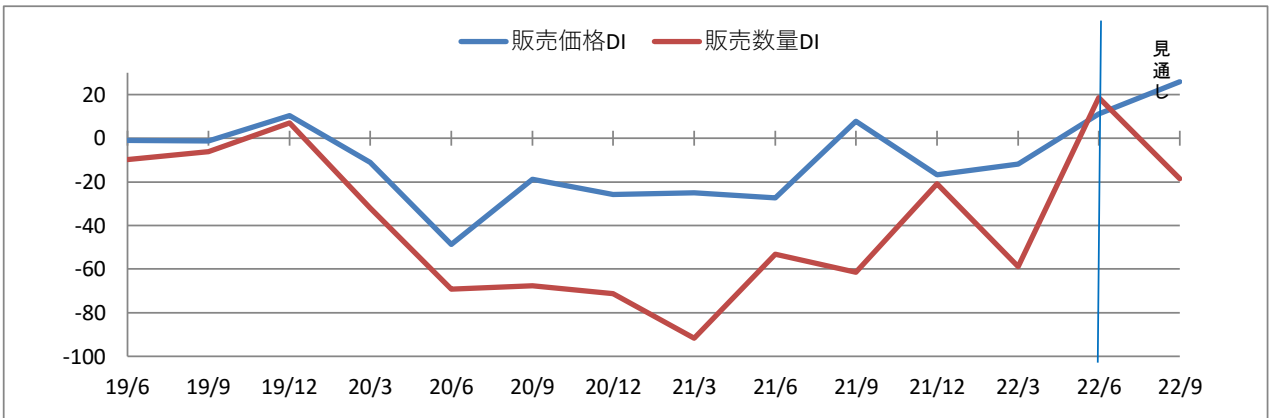
設備投資は「実施中」が27.6%（前回比+21.7ポイント）、「予定あり」が10.3%（前回比+4.4ポイント）で合計37.9%と、人流回復・外国人受入れ拡大を見据えた投資が活発です。

売上D I・収益D Iの推移

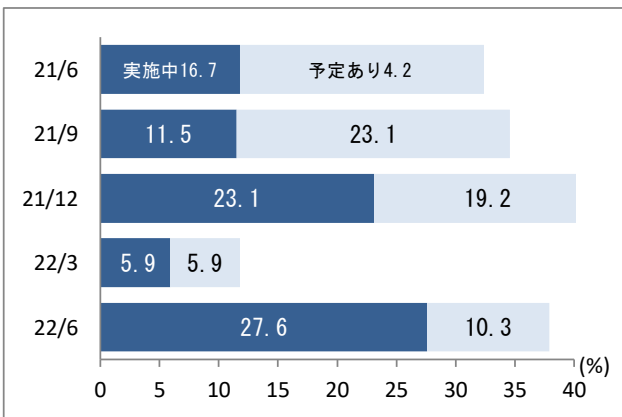
n = 29



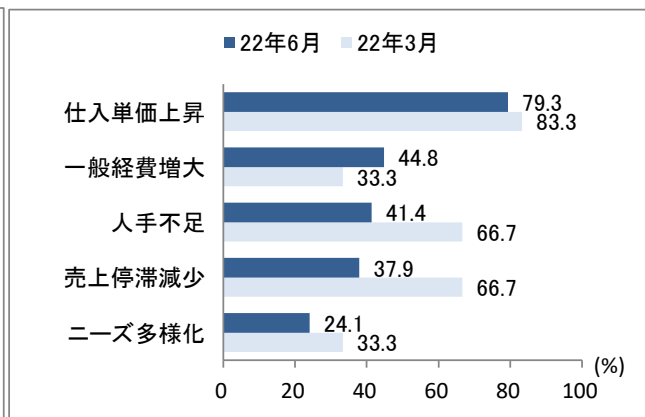
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



売上D I は一前回比-9.8（前回比+12.7ポイント）、収益D I は-10.1（前回比+13.4ポイント）と改善が見られます。前回調査時の予測より売上D I が10.7ポイント、収益D I が18.8ポイント上回りました。

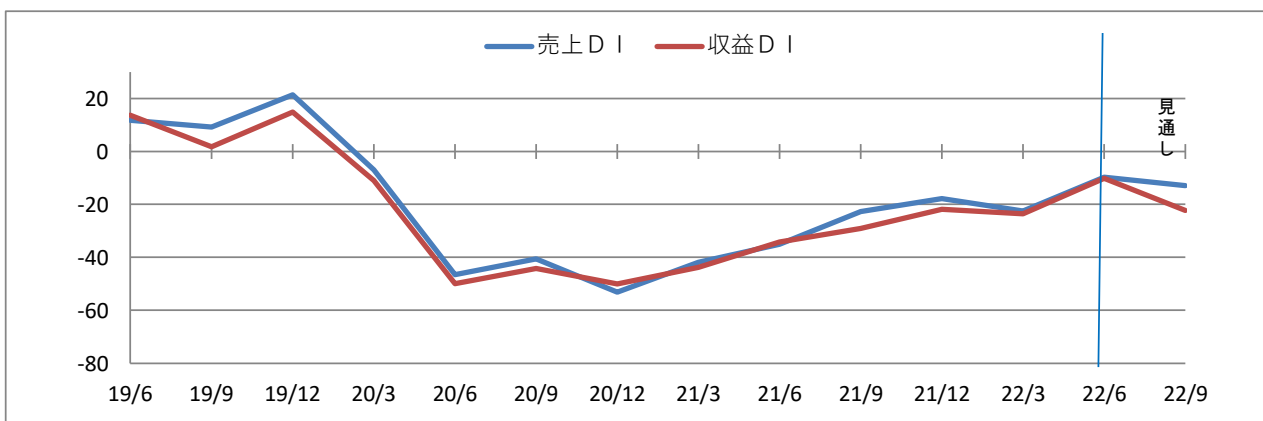
販売価格D I は6.0（前回比+4.9ポイント）、販売数量D I は-15.0（前回比+15.1ポイント）改善しましたものの、2022年7-9月期は、売上D I が3.1ポイント、収益D I が12.2ポイント悪化予測となり、販売価格D I が4.8ポイント上昇、販売数量D I が2.0ポイント改善する見通しですが、売上高は向上するものの収益性の改善には至らないことが懸念されます。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が69.4%、「人手不足」が54.6%、「売上受注の停滞減少」45.4%となりました。木材や住宅設備の調達難や価格高騰が続く中、人材不足も課題として浮上しており、需要はあっても、人手不足で対応できないといった事案も懸念されます。

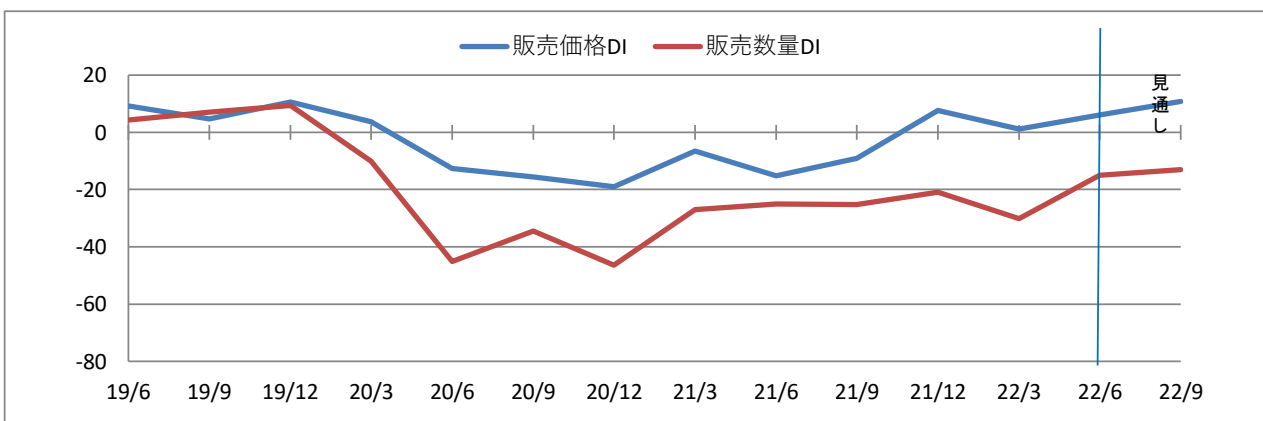
設備投資は「実施中」が9.3%（前回比-0.1ポイント）、「予定あり」が10.3%（前回比+3.0ポイント）で合計19.6%となりました。

売上D I ・収益D I の推移

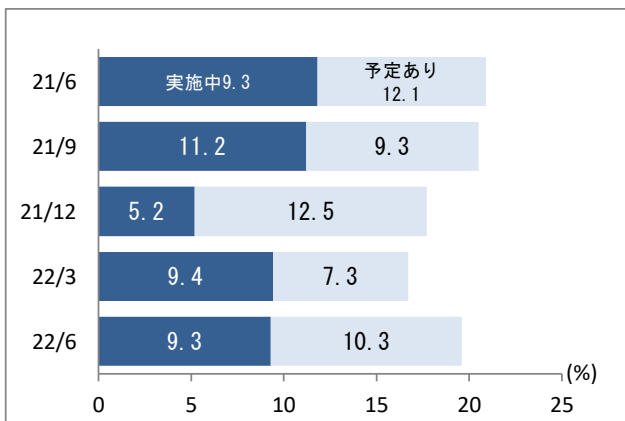
n = 110



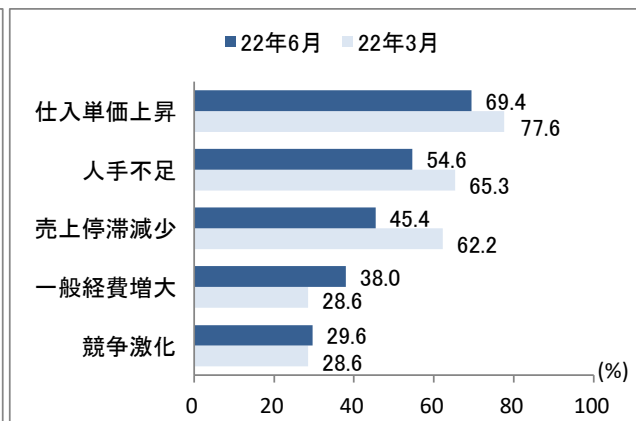
販売価格D I ・販売数量D I の推移



設備投資動向



経営上の問題点



売上D Iは-27.1（前回比+9.6ポイント）、収益D Iは-21.3（前回比+18.1ポイント）と大きく改善しています。販売価格D Iは5.3（前回比+13.0ポイント）、販売数量D Iは-34.1（前回比-0.8ポイント）と販売価格上昇が貢献したと思われる。

人流抑制策が緩和されたことで事業活動を本格稼働する企業もあり、前回調査時の1-3月の見通しを売上D Iは3.9ポイント、収益D Iは13.6ポイント上回りました。

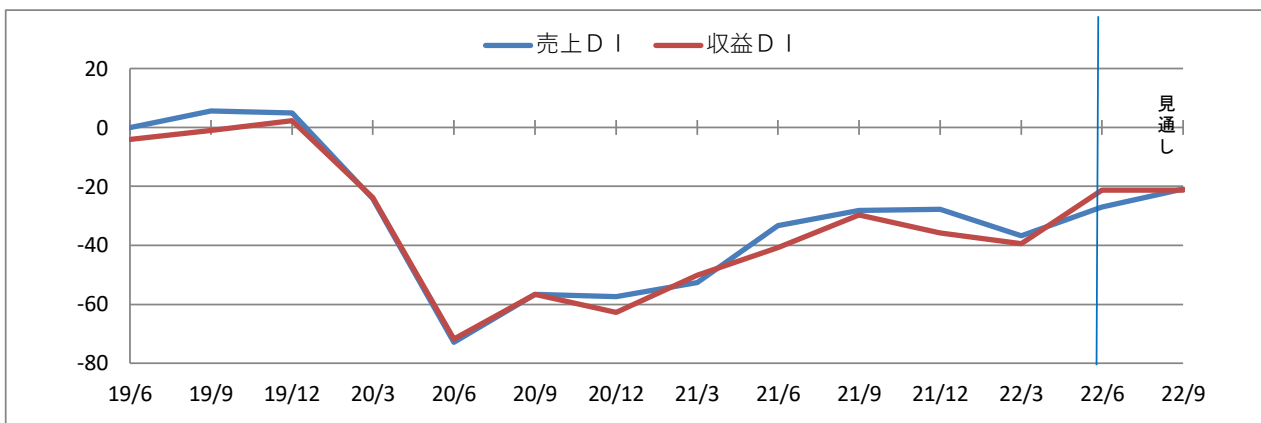
2022年7-9月期は、売上D Iが6.3ポイント改善し、収益D Iは±0.0ポイントと予測しており、販売価格D Iが0.1ポイント悪化し、販売数量D Iは10.5ポイント改善する見込みで、サービスの利用者増加による業績回復を想定する割合が高まっています。

経営上の問題点は、「人手不足」が48.9%、「一般経費増大」が48.9%と続き、個人消費回復を見込む傍らサービスの柱となる人材確保が重荷と感じているようです。

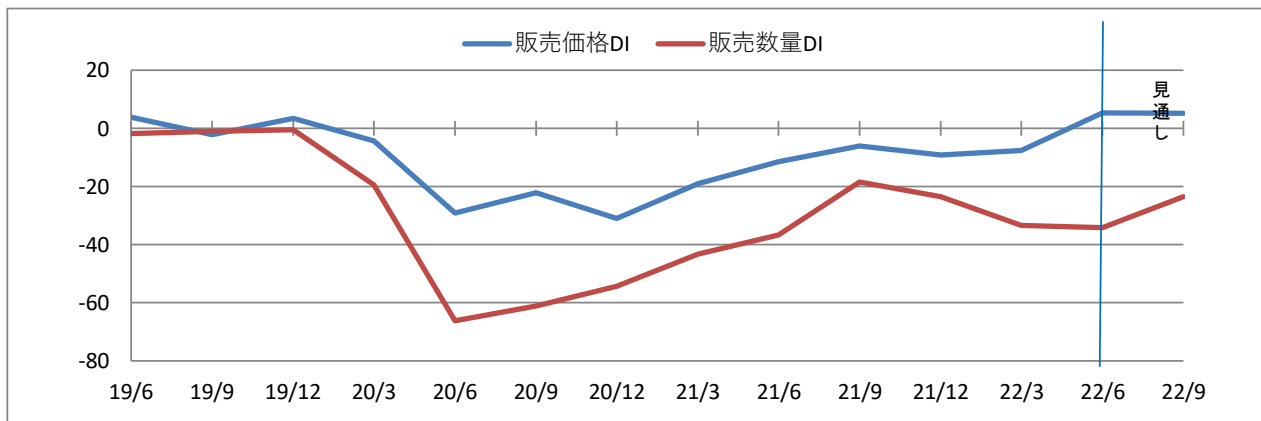
設備投資は「実施中」が18.8%、「予定あり」が16.7%で合計35.5%となり、前回から引き続き活発です。デイサービス企業では「利用者様にコロナ感染者が発生した場合、一定期間閉鎖する必要があり、インフルエンザ並みにしてはどうか」といった声や自動車整備企業では「上海のロックダウンやガソリン高騰で運送業が苦戦、車が動かないと仕事が減少する」など、取引先の業界や規制による制約を懸念する声もあり、企業活動や社会生活の安定化がサービス業の業績改善に必要と思われます。

売上D I・収益D Iの推移

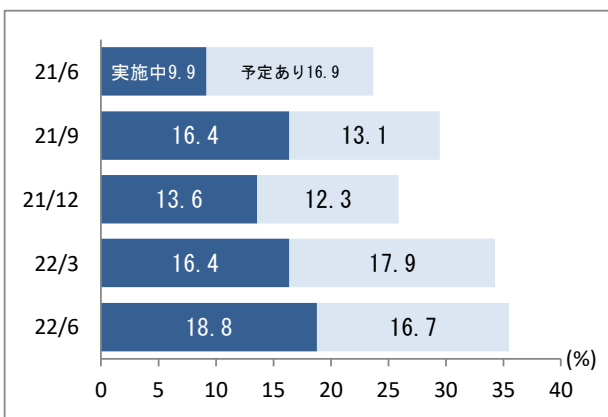
n = 49



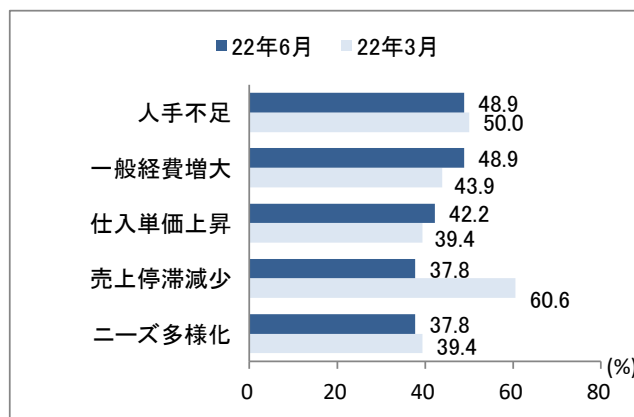
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点





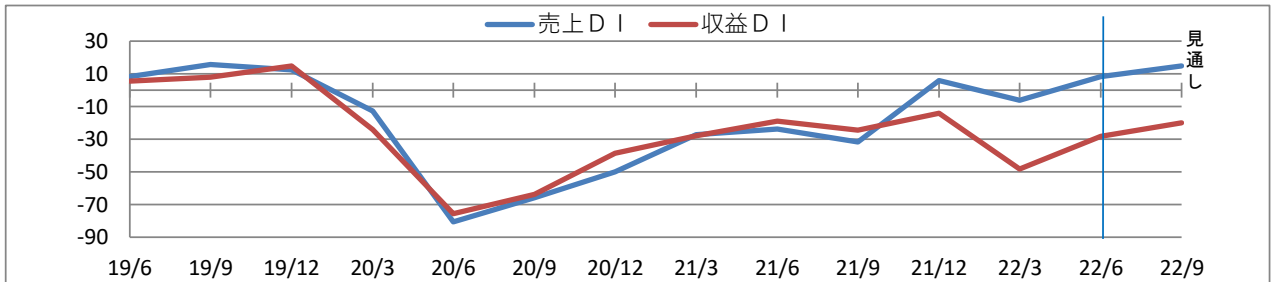
# 運輸業

## 燃料高騰が収益を圧迫する

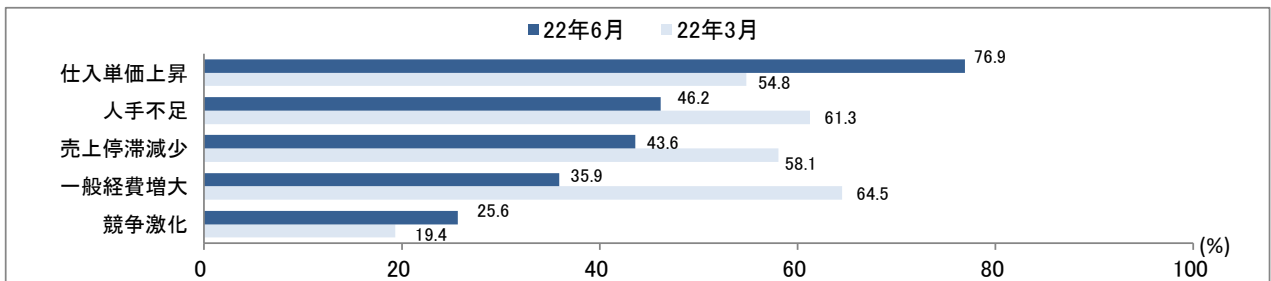
売上D Iは+8.3（前回比+14.6ポイント）、収益D Iは-28.2（前回比+20.1ポイント）と大幅に改善しました。前回調査時の4-6月の見通しから売上D Iは14.0ポイント、収益D Iは14.2ポイント上回り2022年7-9月期は、売上D Iが6.7ポイント、収益D Iは8.2ポイントの改善を見込む。

経営上の問題点は、燃料費高騰を意識した「仕入単価上昇」が76.9%、「人手不足」46.2%と続き、売上が伸びても収益が悪化する構造が問題です。運送企業では「人材不足や高齢化はどの業界にも起こっている、工夫すれば改善していける伸びしろはある」と前向きに考える経営者もいます。

売上D I・収益D Iの推移



経営上の問題点

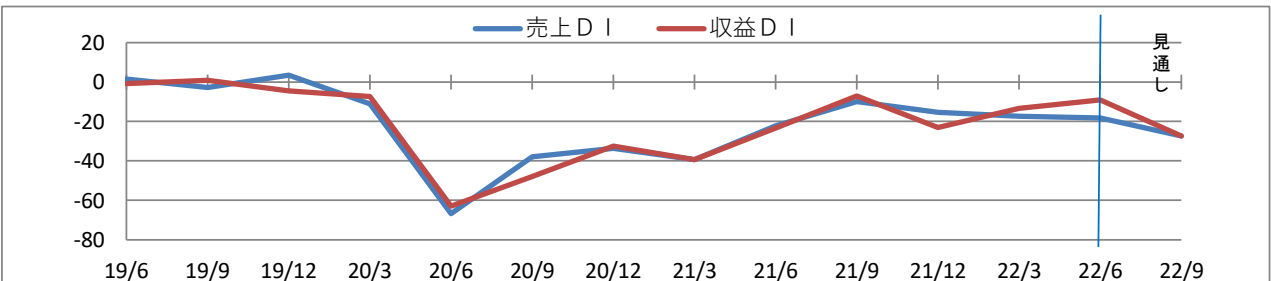


# 不動産業

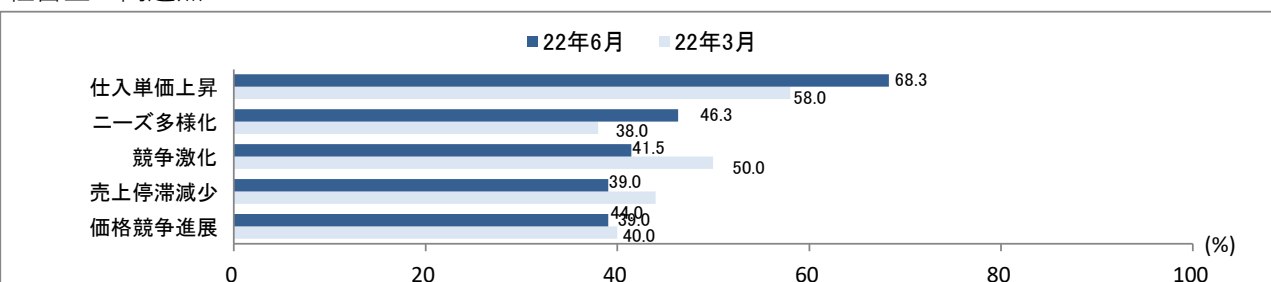
## 仕入への負担感が一段と高まる

売上D Iは-18.2（前回比-0.9ポイント）と悪化、収益D Iは-9.1（前回比+4.3ポイント）と改善し、前回調査時の4-6月の見通しから売上D Iは2.9ポイント、収益D Iは6.3ポイント上回りました。経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が68.3%と「ニーズ多様化」46.3%、「競争激化」41.5%と続きます。不動産業においても物価上昇が課題となっており、景況感もマイナス圏での推移が続いています。「景気が良くならない限り個人消費が伸びない」といった声も聞かれ、先行きの動向への不安感も高まっているようです。

売上D I・収益D Iの推移



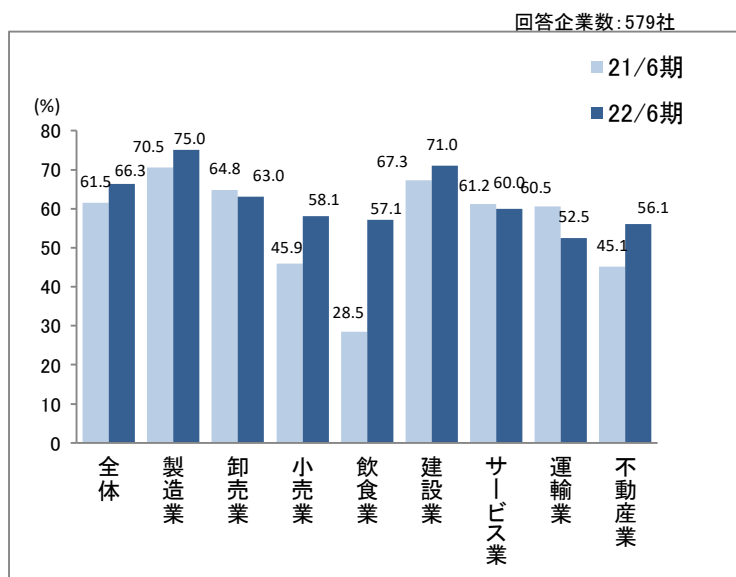
経営上の問題点



## 夏季賞与支給状況

## 支給率改善、飲食業で大幅改善

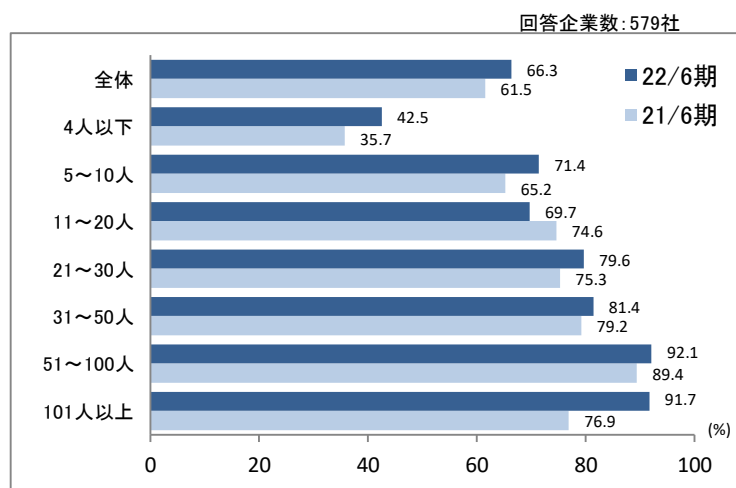
### 夏季賞与(業種別)



夏季賞与について、「支給する」が66.3%（昨年比+4.8ポイント）となりました。昨年から上昇したのは、製造業が75.0%、小売業が58.1%、飲食業が57.1%、建設業が71.0%、不動産業56.1%となり、コロナ禍で規制が続いた飲食業が（昨年+28.6ポイント）大幅に改善したことが大きく寄与しています。

卸売業63.0%、サービス業60.0%、運輸業52.5%では支給率は低下しており物価上昇が続く、支給に踏み切れない割合が高まった業種もあり明暗が分かれました。

### 夏季賞与(従業員数別)

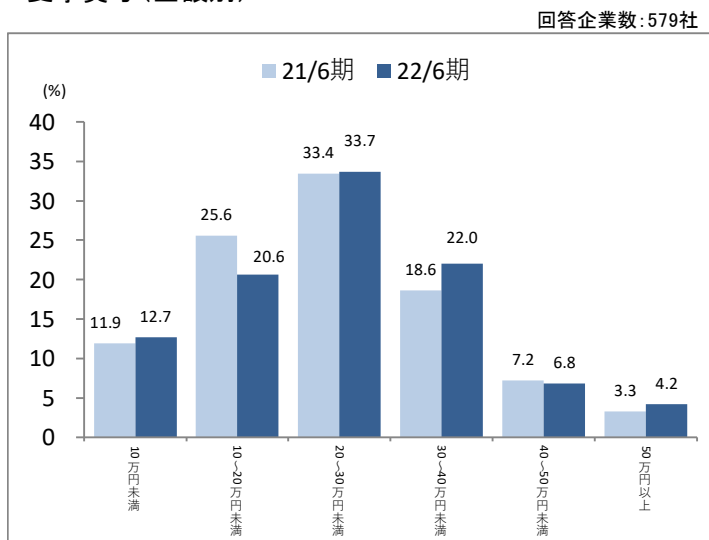


従業員数別では、「11~20人」69.7%（昨年比-4.9ポイント）悪化した以外、支給率が改善しています。

「101人以上」93.7%（昨年比+14.8ポイント）と大幅に改善しました。

従業員規模が大きくなるに伴って支給率が高くなり、「4人以下」の家族経営の小規模事業所が低くなる特徴ははっきりと表れる結果となりました。

### 夏季賞与(金額別)



金額別では、支給する企業が増加したのは、「20~30万円未満」が33.7%、「30~40万円未満」が22.0%、「10万円未満」12.7%、「50万円以上」4.2%に上昇する一方、「10~20万円未満」は20.6%に、「40~50万円未満」は6.8%に下落しました。

支給金額は上昇傾向にあり、経済活動の活発化にともなう人員確保の面からも、賞与増額に踏み切る経営者が増えているようです。